

～ 加盟団体紹介 ～

神奈川県ボウリング連盟

副会長 兼 理事長 不破 伸二

神奈川県ボウリング連盟は、1963年（昭和38年）に結成され、翌年、現在の公益財団法人全日本ボウリング協会（1983年（昭和58年）に日本体育協会に加盟、以下[JBC]という）の設立に参加し、1976年（昭和51年）2月に県体育協会に加盟して現在に至っています。

現在の連盟は、田原兼義会長を中心に、社会人部（川崎・横浜・相模・湘南・三浦の5支部）と実業団部（川崎・横浜・鎌倉・綾瀬・横須賀の5支部）に加え、1998年（平成10年）に県高体連に加盟した高等学校専門部から構成されており、ジュニア選手は社会人部の各支部に所属していますが、高校生は学校登録にて高校専門部に所属することもできます。また、連盟の会員は、全員JBC会員として中央競技団体にも登録されています。

事業の内容は、県内活動としては、毎年200名前後が参加する連盟選手権大会と神奈川新聞社優勝旗争奪競技大会の二つのメイン大会があり、他にも新人競技大会・シニア競技大会・年齢別競技大会など全国大会の予選を兼ねた大会や、関東地区・東日本・全日本の大会に向けた予選会、ジュニアを対象にした大会、社会人部・実業団部の年間リーグ戦なども行っています。また、高等学校専門部も独自に5月の県高校総体、11月の高校対抗二人チーム戦、1月の新人戦などを行っています。

さらには、JBCや関東地区連合からの要請で、周期的に全国大会や関東地区大会の主管を担当しています。中でも7月のJOCジュニアオリンピックカップ全日本高校選手権大会と12月の文部科学大臣杯全国高等学校対抗選手権大会は、毎年川崎グランドボウルで実施しています。

加えて、日体協の主催する国民体育大会や日本スポーツマスターズの代表選手を選考する事業も行っています。特に国体の場合には県体協からの委託事業であり、成年の部は10～3月の間に一次選考を行い、4、5月に最終選考と少年の部の選考会を実施しています。代表選手選考後は、県体協からいただく選手強化費に基づく強化練習会を、関東ブロック大会および本国体までの間に複数回行うようにしています。

また、県体協からいただくジュニア選手強化費に基づくジュニア強化練習会を、日体協の公認コーチで指導者としての経験豊富な矢野プロの協力のもと、県内の中学1～3年生および高校1、2年生を対象に、それまでの大会等の成績を考慮して30～40名程度選考し、毎年11月～2月に月一回実施しています。その成果が、国体や全国大会でのジュニアの成績に反映されていると思います。

さて、ボウリング競技が国体の正式種目となって今年で30回目を迎えます。過去29回の国体の中で天皇杯1位となったのは55富山国体の1回だけですが、昨年・一昨年と2年連続を含め2位が5回、3位が3回、4位が4回、5位が2回、6位が1回、7位が4回と計20回も入賞しており、皇后杯は1位が2回（55富山国体と65千葉国体）と5位が2回、6位が5回、7位が3回と計12回入賞していて、ますます活躍できているかと思えます。特に、55富山国体は、初めて天皇杯・皇后杯ともに1位になれた大会であり、61兵庫国体は、大会前の宿泊ホテルに当時の山下会長が直々に激励にお越しいただいたこと、初めて全員で総合開会式に参加したこと、天皇杯2位・皇后杯6位と健闘できたことなど思い出深い大会でした。

最後に、今年の3月に行われた第55回全日本選手権大会の男子6人チーム戦で、平成16年に3連覇して以来となる13年ぶりの優勝をAチームが達成し、Bチームも4位に入賞できたことは、強いチーム神奈川が戻ってきた予感がします。



海老名市体育協会

会長 森 田 壽

神奈川県ほぼ中央に位置する海老名市は、昭和 30 年(1955 年)に旧海老名町と有馬村が合併し、海老名町となり、同年に海老名町体育協会が設立されました。

設立当初の体育協会は、レクリエーション協会を含めた 9 部門で、青年団や婦人会の熱意により発足されました。当時は、団体の活動の場である施設や補助金の制度はなく、種目団体の役員、会員の方々の創意工夫により協会が運営されていました。

その後、種目団体も年を追うごとに増え、平成 27 年には、スキー協会の加盟により、22 種目団体で構成され現在に至っています。

昭和 50 年代に入り、本格的なスポーツ施設が整備され、体育協会種目団体の大会、講習会が市内のスポーツ施設で開催できるようになり、競技力向上につながっていきました。

平成 18 年度には、将来の海老名市を担う子ども達に対し、スポーツを通じ健全育成を図ることを目的に、えびな少年少女スポーツクラブが体育協会の傘下の組織として設立されました。現在では、12 種目 50 チームの子ども達が、多くのスポーツ事業に参加し、技術の向上を図ることにより、海老名市のスポーツ事業を盛り上げ、元気なまちづくりの重要な役割を果たしています。

体育協会の自主事業としましては、毎年、講演会や講習会を開催し、体育協会・えびな少年少女スポーツクラブの会員のスポーツ振興を図るための意識を高める事業となりました。

また、海老名市は、宮城県白石市・北海道登別市と姉妹都市となっており、都市間交流事業として様々なスポーツの交流を行っています。子ども達は、毎年夏休みに白石市や登別市とスポーツ交流で親睦を深める貴重な体験をしています。

今後、体育協会は、多種多様なスポーツが行われていく中で行政と連携を図りながら、従来の団体に加えて、新たな団体の加入促進を進めていく必要があると思います。

海老名市が定めている「一市民スポーツ・レクリエーション」の基本理念をもとに、子ども達から高齢者まですべての市民がスポーツ・レクリエーションに親しめるよう努めてまいります。

最後になりますが、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて行政の取組を積極的に支援し、連携、協力してまいります。

